

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会

関係団体別意見交換会（子ども・教育）

■日時 令和5年2月19日（日） 午前9時～午前10時36分

■場所 市役所802会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、久留委員、古賀委員、鈴木委員、中村委員、  
箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：木下委員

事務局が、手話通訳と写真撮影、討議要綱、意見交換会の趣旨と進行、意見の取り扱い及び今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員による自己紹介の後、意見交換を行った。

【武蔵野市私立幼稚園連合会】 基本施策2の1)と2)について。現状、女性の就労支援、待機児対策等、第六期長期計画はほぼ順調に進んでいる。保育の受け皿づくりはできたが、少子化は進む一方だ。少子化施策は労働施策と重なる部分がある。子育てを中心とした働き方改革や、それを受容する社会が必要だ。例えば、日本では仕事だけする人をキャリアとしてきたが、欧米では男女に関わらず子育てをすることがキャリアの第一歩という認識だ。少子化施策における現状認識を新たにすることが必要だ。少子化時代の子育てと教育環境の充実に向けて、これからの子どもたち、今の子どもたちのための社会資本をどのように残し、どう活用していくのか。単なる自由競争での淘汰ではなく、大切な幼児教育のリソースである私立幼稚園の各園の創意工夫への支援と幼児教育の推進のための施策の推進をお願いしたい。

具体策は次の5点である。

1 番目、武蔵野市における第六期長期計画・調整計画で幼稚園の位置付けをする。

2 番目、新制度13事業の「一時預かり事業（幼稚園Ⅱ型）」を要件緩和し、市で独自に支える。私学としての実績を評価し、創意工夫や自由度を生かした取組みを支援いただきたい。国は、幼稚園を含む保育所の空き教室、空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を推進していく。その考え方を参考に、市と幼稚園で連携して幼稚園における乳幼児への支援をする。

3番目、放課後の学童に関しても、幼稚園の資源を利用できる。

4番目、幼児教育の質の向上のために幼稚園のリソースを活用する。

5番目、こども家庭庁設立で制度が大きく変化している。公私・幼保を超えて、子育て支援に市が関わり、子ども関係の会議体や分掌など、俯瞰した視点で見直す。

【A委員】 基本施策2の1)は、前は保育施設だけだったが、これから保育施設、幼稚園関係なく、子育て支援を考えていくということで幼稚園も入れた。

基本施策2の2)「保育の質の向上に向けた取組みの推進」の「保育」は、児童福祉法上の保育、「保育所等」をいう。その分、基本施策4の1)「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」の最後に「市全体の幼児教育の質の向上を図る」という文章を入れた。これまでの意見交換会や、市の別の会議でもご意見いただいた、幼児期の遊びとか幼児教育の振興についても追加できたらと個人的には思っている。

【委員長】 様々な方がいらっしゃる中、多様なキャリアを尊重するうえで、「仕事だけではないキャリア」は、とても重要なご提案として受けとめたい。

【第二中学校PTA】 第六期長期計画が令和2年4月1日から施行された。その直前にコロナで学校は6月ぐらまで休校になった。その後、市内の公立小中学校は分散登校になり、先生方は、期せずして少人数学級の体験をすることになった。武蔵野市では「先生いきいきプロジェクト」として、先生方の負担を下げることをしているが、そんなのは関係ないというくらいの効果があり、先生方からも「非常にやりやすかった」という声がある。ただ、午前・午後に分けて、1日に2回授業するのが大変だったともおっしゃっていた。

先生の働き方改革や、今、先生のなり手がいないことの対策は、本当は国がやってくれたらいいが、教員採用は東京都の加配でどうにかできるのではないかと。私は少人数学級を進めてほしいが、武蔵野市では難しいということであれば、東京都への働きかけをしていただきたい。今動かなくてどうするのか。時間がかかると思うが、じっくりと東京都と向き合ってほしい。

【A委員】 教育の質の向上、小中学校教育の充実、教職員の働き方の追求について策定委員会が都に働きかけるというのは難しい部分もあるが、どう書き込めるかについては委員会で検討する。

【委員長】 都への働きかけを長期計画でどう位置付けるかは、策定委員会で議論させて

いただきたい。私も昨年 12 月まで武蔵野市学校・家庭・地域の協働体制検討委員会に関わっており、国や都へ教育に関する多くの資源投入を求めたいと報告書に書かせていただいた。市が最終的にどういう働きかけをするか、ボールは今、市のほうにあるが、ご意見や報告書等を踏まえて策定委員会で議論する。

【武蔵野の教育を語る会】 基本施策 4 の 3) に「ラーニングコモンズとしての学校図書館のあり方についての検討や、学校図書館サポーターの機能の拡充」とあるが、各小中学校には図書館サポーターではなく、専任の司書の資格を持った教員、あるいは司書教諭もしくは教員の資格を持った司書等、図書の専門の人を配置すべきと考える。教師としても司書としても力のある人による指導ができる体制があつて、子ども一人ひとりに本当に意味のあるものになる。私が勤める私立小学校では、教員として司書を採用した。これにより、図書館の活動が進んだ。今、多様な支援を必要とする人がいて、学び方も多様になっている。図書に関する専門の教員を配置することで、様々なニーズのある子どもが話しに行ける窓口の一つにもなる。図書館司書も養護教諭のような役割を果たしていることを実感している。

【A委員】 個人的には、サポーターではなく、専門性のさらに高い司書教諭等を置くようになっていけばいいなと思っている。未就学児も含めた児童生徒は、本だけでなく、今の情報化社会の中で情報の取得、活用を学ぶことも重要である。また、インクルーシブな教育を考えると、子どもたちが、学級の先生や図書の先生等いろいろな方と接する中で受け入れられていくというのも大事な視点である。そうしたことをどういう形で計画案に入れられるか、委員会で検討する。

【子どもの居場所リジョイス】 武蔵野市には桜堤にしか児童館がない。未就学児の施設はたくさんあるが、小中学生が行ける場所、特に不登校のお子さんが日中過ごす場所がない。武蔵野市は家賃も高いので、市民に志があつても、実際に居場所をつくるとなると、ハードルがどうしても高くなる。私は自宅を開放して居場所を始めたが、日中、子どもたちが行く場所があるというだけで、子どもだけでなく、お母さんたちがすごく安心しておられる。家庭の中での親子の関係は大事だが、親子関係で追い詰められて不登校になるお子さんが多い。子どもの居場所というニーズはある。中学生が自由に学びに行ける場所が市内にもっと増えたらいいのにといい声が市報にも載っていた。子どもたちが学んだり遊

んだりできる居場所の必要性を私は改めて感じている。

今、社会福祉協議会から、1回2,500円の支援金をいただいているが、足りない。支援して下さるボランティアさんも、家庭の事情等により、なかなか継続的に来られない。有償ボランティアという形で居場所をしたいという方に、しっかり予算をつけていただきたい。

また、学校に行きづらいお子さんたちは、皆さんそれぞれ状況が違うと思うが、学習障害を持っている方もたくさんいらっしゃる。発達特性に応じた学びの場を増やし、例えば言語聴覚士さんを学習支援の場に派遣するなど、居場所にも専門家を用意していただきたい。それが子どもたちの学ぶ権利の保障になる。小学校では今、支援級はあるが、学習障害に関しては支援ができないということなので、早急に対処していただきたい。

【A委員】 学校以外の居場所の重要性については、これまでも様々なところでご意見をいただいている。基本施策4の6)「不登校対策の推進と教育相談の充実」にも居場所や学習機会について書いたが、不登校のお子さんに関してだけでなく、子どもが安心できる場所、学ぶことができる場所、遊ぶことができる場所が足りない。様々なお子さんの居場所をどう考えるかについて、さらに書き込んでいく必要がある。

発達特性に関しての学習障害の子どもを支援する専門家については、基本施策4の5)「一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実」にもあるが、学校以外の部分でも子どもたちが支援されるというのは重要な視点である。また、専門家を全てのところに置くことをどうしたら実現できるかについては、複合化施設の委員会(子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議)で、様々な部署の横のつながりをつくるということが検討された。一つ一つの施設にすぐに置くことはなかなか難しいかもしれないが、そういう支援を行う方たちとつながっていくことについての書き込みができればと思っている。

【With Turtles】 特別支援学級、いわゆる固定学級のお子さんが、通常級の学級に勉強しに行ったり、交流をするという取組みが来年度で4年目に入る。これまで少しずつ積み上げてきたものを次のステージに持っていくには、関わる教職員や児童の心的変化などを分析して効果検証すると同時に、交流における目的やそれに伴う課題をより明確化することが望ましい。多様化する社会では、特別支援に対する教職員の知識や技能がさらに要求される。一方で、多忙と言われる教員が一人ひとりに手厚い支援ができているかという、なかなか歯がゆいのが現実だ。他市では、東京都発達障害者支援センター(TOSCA)

を活用することで、教職員はもちろんのこと、保護者にもその効果がもたらされているという報告がある。武蔵野市も、TOSCA の活用を視野に入れて、児童たちの具体的な困り感や対応策等を教職員全体で共に考える機会を設けてはどうか。

子育て支援として、子ども家庭支援センターの「のびのびプロジェクト」や武蔵野市のハビットが主催する「話そう会」という、発達障害の子どもを養育者を対象としたピアサポートがある。子どもの健全育成に保護者支援は欠かせない。市としても継続してサポート体制の強化をしていただきたい。

【A委員】 インクルーシブ教育には、教職員に対して、子どもの支援の研修とあわせて、子どもが学んだり遊んだりする権利の保障という観点での研修の2段階が必要だと個人的には思っている。同時に、先生方が課題を抱えたときに、それが共有できて、専門家に相談することができるといった横のつながりも大事である。あわせて、例えば幼稚園や保育園から小学校に行く、小学校から中学校に行くという縦のつながりが切れてしまわないようにすることも大事である。その情報を共有できるシステムを考えていければと、ご意見をお聞きして思った。

今は、学校内の教職員というところが少し強くなっているが、保護者のサポートも大切である。家庭、保護者への支援についても書き込むことができればと思った。

【委員長】 保護者支援については、こういったことがあったほうが助かるといったことが様々あると思う。具体的にご意見やご要望をお寄せいただきたい。

【ミカモーレカウンセリングルーム】 私は家族関係心理士をしている。自身の子どもの問題を抱えていたとき、知り合いのお母様に社会性のあるカウンセラーを紹介されて、鳥肌が立つような思いで、その学びに没頭した。多くの社会での問題は、働く人の場所も、学校での問題も、最後は全部家庭に落ちてくる。不登校、ひきこもり、休職等、現場の事例を皆さんと共有して、私の学びを役立てていただきたいという思いから、今日この会に参加した。

新聞報道によると、私が認定を取った10年前と比べて、不登校の子だけでも2倍になっているようだ。私には解決するカウンセリング手法がある。結局は親だ。子どもを何とかしようと思ったときに、親の、子どもへの接し方が変わらなければ、子どもは変わらない。頭で理解しても、変えるというのは難しいが、脳の働きを使って変えることはできる。武蔵野市に貢献したい。悩んでいる人たちが元気になれるように、その方たちとつながり

たい。

【A委員】 武蔵野市には本当にたくさんの専門家がいらっしゃって、それぞれ活動されている。そういったネットワークをどうつくっていくのか、子どもたちや保護者が、自分に必要な支援を得られる方や団体とどうしたらつながれるのか、自分で探すのが大変な場合もあるので、そういったシステムがさらに充実していくといいと、ご意見を伺いながら思った。専門家とつながるためのネットワークについての記述を入れられるか、策定委員会で検討したい。

【青少年問題協議会 境南地区委員会】 9ページの将来人口推計は、あまりにも楽観的過ぎやしないか。日本で人口が減少しているにもかかわらず、武蔵野市だけ右肩上がり伸びるといふことだが、推計を出すにあたってのパラメーターをどう使っているのか知りたい。

財政に関しては、以前の資料では、公共施設の建てかえ等が入って、2040年には財政基金がゼロになるという推計が出ていたと記憶している。基金がゼロになることも考えて、市のスリム化を考えていかなければいけないのではないかな。

関連団体の統廃合も進めていかなければいけない。武蔵野市は14ほどの関連団体があるが、周辺の自治体では1桁にとどまっている。関連団体が多過ぎることについての見直しも必要ではないかな。

最近ふるさと納税で税収が減っているのではないかな。

学校の建てかえの際、シェルターを常備していただきたい。日本の周辺がザワついている。防災の観点からもシェルターは有効と考える。

私に関わる開かれた学校づくり協議会で、学校の管理職にPCがアサインされていないと聞いた。ICT関係の予算は取っているが、管理職のもとに行き渡っていない。管理職側では、クラス掛ける1.5台のPCがあるといいとおっしゃっていた。ぜひ管理職にも固定のPCをアサインしていただきたい。

通学路の安全については、今人手に頼っているが、それをぜひ自動化するような予算をつけていただきたい。

今日のこの意見交換会のような会に限らず、もっと日ごろからざっくばらんに議論できる場を多く持って、策定委員会に市民の意見が反映されるようにしていただきたい。

【B委員】 将来人口推計については、中立を確保するために、人口推計で一般的なコー

ホート要因法を用いた。年齢ごとの過去における5年間のトレンドをそのまま伸ばして見ているが、実際、武蔵野市ではそれだけ人口が増えている。人口を増やしたいからこの推計をつくっているわけではなくて、一番ベーシックなシナリオはどれかという形でつくった。最後に容積率など都市インフラとして、16万人が実現できるのかというチェックもかけ、可能と判断されたので本案を採用した。ただ、これはあくまでも推計値であって、予測することは難しいというところをまずご理解いただきたい。

日本全体で人口が減っている中で、武蔵野市だけ増えているのは、モデルが違うからである。日本は閉鎖モデルで、日本国内でどうなるのかに対して、武蔵野市は、他市から入ってくる方と、他市に出ていく方がおられる開放型モデルである。これまで人口が増えてきたトレンドが反映されているが、これはあくまでも推計値で、外部環境はどんどん変化し、人口が減少することももちろんある。そのときに、武蔵野市でどういう手を打つのか、財政をどうコントロールしていくのかという次の議論を重視したほうがいいということをごこの討議要綱に書かせていただいた。

財政についても、武蔵野市は比較的予測しやすいとはいえ、正直言ってやはり難しい。通常は、国費助成が入ってくる。また、コロナ禍で、地方財政は今までのトレンドから大きく変わった。基金を積み増して、財政好転している市町村もかなりある。一方、武蔵野市は、もともと財政的には余力を持っている。だからといって、拡大していけばいい話ではなく、ご指摘のとおり、スリム化すべきものはスリム化し、合理化すべきものは合理化しなくてはいけない。したがって、討議要綱では、今の財政を過度に心配する必要はないので将来にとって必要な施策は積極的に展開する、ただ、財政の合理化、効率化に関しては積極的に取り組むと書いた。その中に関係団体も入る。重要なのは、ここまで悪くなるとまずいから気をつけようという数値設定をかけているということである。

また、ご指摘のとおり、ふるさと納税により、武蔵野市は億単位の影響を受けている。第六期長期計画のときからも位置付けているが、流出を防止できるわけではないので、現状、武蔵野市としては、市にふるさと納税してもらえないものをつくろうという取組みをしている。

通学路の安全については、都市基盤分野のほうでかなり書き込んだ。通学路の安全がかなりまずい状態になっている。特に、高速道路の外環ができて、インターチェンジが近隣にできると、さらに厳しくなるという議論を委員会でもしており、討議要綱に書き込んだ。

私も、皆さんと日ごろから議論する場をできる限り持ちたい。今回はこれだけの人にお

集まりただけで大変うれしいが、第六期長期計画策定時は、圏域別意見交換会の参加者数がすごく少なかった。そこで、情報を届けるためにはデジタルを入れないといけないということを討議要綱に書き込んだ。今、策定委員会は全て公開し、オンライン傍聴もできる。毎回傍聴者アンケートをとらせていただき、意見をどんどん出していただく仕組みもつくっている。まだまだ課題はあるが、できる限りのことをこの委員会として取り組んでいる。

【A委員】 校長先生までPCが行き渡っていないということについては存じ上げなかった。必要などころに行き渡るように考えるのは大事なことである。計画案にどのように組み込めるか、委員会で検討したい。

【委員長】 学校建てかえにおけるシェルターについてはご意見として承る。場合によっては学校の改築の委員会等へ申し送るといった形で対応したい。

【武蔵野千川福祉会】 昨年、障害者の権利条約に関して国連からも勧告があった。インクルージョンとかインクルーシブ教育は大きなキーワードになると思うが、前回の計画よりトーンダウンしていると感じた。

市内の幼稚園では、定員割れとなっていることに伴い、発達に遅れのあるお子さんや障害のあるお子さんが通うケースが増えてきた。しかし、幼稚園の先生もご経験がなく、対応が難しいという。武蔵野市として、インクルージョンとかインクルーシブ教育が幼児教育でどういう方向性にあるのかを明確にしてほしい。

保健センターの増築、大改修に伴う複合施設化は、障害のあるなしにかかわらず、子育て等の観点からとても重要だ。児童発達支援センター・教育支援センター・子ども家庭支援センターは、現場とどう連携していくのか。その連携のあり方や方向性に希望が見えるとうれしい。

【みかづき子ども食堂】 子ども食堂では、共に食事をする中で、子どもたちや保護者の皆様からいろいろな相談を受ける。中でも、不登校や、学校に行っているが学校の勉強についていけないというご相談を受けるので、7年前から学習室も始めた。関わっているのは、守秘義務を遵守できる元教師や保護司、児童委員の方たちだ。子どもたちはいろいろな課題を複数抱えている。

何か全体的に解決できる根拠となるものがあればいいなと思っていたときに、ちょうど



武蔵野市でも子どもの権利条例の検討がされて、パブコメには賛否合わせて1,800を超える意見があった。大人が真剣に子どもの現状を見て、子どもは自分で考えて意見を述べる。そのことだけでも、子どもの権利条例はすばらしいと思う。子どもは自分の力だけでは全ての物事を解決できない。周りの大人や専門家が考えることの大切さを改めて感じた。

子どもからの相談には、重い相談もたくさんある。私たちでは解決できないというときはスクールソーシャルワーカーの皆様にご相談している。学習室や居場所事業をする人たちがどういう思いで子どもに接したらいいのか、専門家にアウトリーチして事前に学習する場があるといい。

子ども食堂を通して、SDGs が教育に関連するという気づきを得た。学校教育の場で、子ども食堂や SDGs や食品ロスのこと一つの流れとして解決できるような場を設けていただきたい。

**【武蔵野市私立幼稚園連合会】** ハビットや各療育施設の方たちに幼稚園を支えていただいている。今年度は武蔵野東幼稚園が学びの機会を与えてくださり、多くの教師が学ぶ機会を得ることができて助かった。私立幼稚園には、多様性に富んだ子どもたちが来る。中でも、コロナが関係していると思うが、コミュニケーションの大切な幼児期に、言語面で苦しい思いをしているご家庭がたくさんある。武蔵野市に言語療法士の方たちがたくさんいて、幼児期の子どもたちに対して指導できるといいのではないかと。

また、通所証明書をいただくには、障害課のようなところに行かなければいけないが、それが後々もつきまとうのではないかと不安感を持つご家庭がある。こういう表現は人権という問題でどうなのか。そういうところをまず変えて、どの子も支援を受けることができるような体制をとっていただきたい。

保育園と幼稚園の処遇待遇にとっても差があることに皆さんは気がついておられるだろうか。今、幼稚園の教師を獲得することがとても難しくなっている。幼稚園の教師たちについても保育士と同様の配慮をお願いしたい。

**【学校に行きづらい子どもと親の茶の間ジョナ】** 私の子どもが不登校を経験している。当事者の言葉を伝えたいとの思いで、7年前から市役所にいろいろ言って、クレスコーレをやっとつくっていただいたが、整備にはとても時間がかかることを実感している。

早急な対応として一つお願いしたいのが、学校での不登校児の対応だ。不登校児は問題

児ではない。学校のにおいや雰囲気だめとか、先生の日本特有の圧力的な教育が苦手なのであって、学校を変えれば、元気よく学びの場に通える子も多くいる。公立学校は無料だが、ほかの学校に行くと、どうしてもお金がかかる。今、保育園と幼稚園が無償化している。同じように義務教育の小中学校も無償化できるような予算をぜひ武蔵野市でもつけていただきたい。

【にじいろじかん、ハジメノハンポ】 性教育の充実について。今年の4月から国の主導で命の授業が導入されるが、武蔵野市では、今でも歯止め教育の観点から、充実した教育がなされていないということをお産師さんから多々聞いている。性教育は子どもの権利の話で、必ずしも性交だけが問題ではない。包括的な観点から、子どもたちに平等に、サイエンスとしての知識の提供の機会をいただきたい。

キャリア教育の充実をお願いしたい。昨今、国のほうでキャリアパスポートの導入が始まったが、子どもを育てる立場として、キャリアパスポートの内容を見て、愕然とした。先生たちは、お忙しい中、新しい取組みに日々模索されているが、まず先生自身にインプットの機会をご提供いただきたい。教育と実社会のギャップを先生自身が体験する機会がない。長期休みを利用して、インターンシップなどで先生自身が体験することで、小学校・中学校で子どもたちに、社会にどういったアウトプットが必要かという視点を持つことの道筋をつけられるのではないか。また、子どもたちにアントレプレナー的な視点での教育の機会をインプットとして得られないか。

武蔵野市は中学受験をして、市外へ行ってしまう子が非常に多い。小学校までのうちに、市内での社会的な課題を抽出して、みんなで検討して、実践する。PDCAを回して、その成功体験をみんなで得ることが、本人自身の将来のキャリア教育につながる。

民間の保育園が多くなっているが、運営の合理的な問題として、本部にお金プールされている。武蔵野市は保育園への交付が非常に多いと聞いているが、適切に交付されていない現状が非常に気になっている。

【桜堤児童館地域クラブ】 討議要綱の中に「児童館」という言葉を探したが、用語説明の「子育て世代包括支援センター」の中にしかなかった。実際、中高生が関われる施設は一つもない。児童館も中学生までだ。ただ、厚労省は中高生に児童館を提供しようとしている。包括支援センターをつくっていただいたのはとてもありがたいが、具体的に何か

変わったというわけではない。相変わらず子どもの居場所は、学童かあそべえ、もしくは公園である。図書館も少ない。どこを居場所にしたらいいのか。複合化施設というのも、ぼんやりし過ぎて、具体的に何をどうつくるのか、誰が利用するのかもわからない。

【子育て応援スペースとことこ】 コロナ禍で、子育て中のお母さんたちの孤立化が急激に進み、産後うつのある方や診断される方が増えていることに危機感を感じる。「子育て支援の中で困ったときは、おぼれた人に浮き輪を1個ずつ投げることを考えるよりも、全員ライフジャケットを着ようよ」という知人の言葉に、ああ、そうだなと思った。今大事なのは学びとコミュニティ、人のつながりが見えるということだ。しかし、それがすごく難しい。

産前から自分の女性の体のことだったり、パートナーシップのこと、発達や障害のこと、思春期、性教育についての学びから、仲間に会えたり、コミュニティができるといいなど思う。保護者が学ぶことが、保育の質の向上にもつながるし、地域全体で子育てするという市民の力にもつながる。政策は変わる。例えば育休が変わるとか、子どもの権利条例はこうだとか、保育指針や教育要領が変わるといふとき、変わった後の説明だけでなく、なぜ変わったかという歴史的背景や今、日本に必要なことがわかると、それも学びになる。

今、保育園は、待機児童ゼロというが、一時預かり保育は待ちが20人ぐらい並んでいる。一時預かり保育の拡充と、子どもも学んで文化的な活動ができるということも、あわせて見えるような政策があるといい。

【吉西福祉の会】 今武蔵野で児童館と呼べるものは、桜堤以外は各小学校のあそべえだ。小学校を卒業した後でも友達と会える児童館を、中学校区に一つを目指してつくってほしい。そのほうが、子どもたちの日常の遊びとか人づき合い、その地域の理解が広まる。今の囲われたような状態がとても気になる。

学校改築懇談会に出ている。学校の先生が教育に関して熱心なことがとても伝わってくるが、将来的に地域に子どもがいなくなったら、学校の校舎は、使わなくなる。こうしたことは各地で起きている。小学校が公民館になったり、社会福祉協議会の事務所になったりしている。体育館を地域の人たちの夜間の社会体育のために使っているところもある。今改築しようとしている60年先の小学校にもそういう変化は起こり得る。そういう変化に対応した改築について考えるが、学校は教育の場なので、理解が得られない面がある。

【A委員】 たくさんのご意見をいただいて、みんなで子どもたちのことを考えられるということがとてもうれしい。

インクルーシブについて、他の自治体の公立幼稚園で、幼児教育センター的な機能を持ちながら、障害を持ったお子さんをどう考えるのかという取組みが今なされている。武蔵野市は公立幼稚園がない分、私立幼稚園が研修を行っておられるので、そうした研修が広がって、専門的な知識を幼稚園、保育園で一緒に生かすことを考えていけるといいのではと思った。

複合化施設については、施設を複合化するだけでは意味がなくて、その横串をどう刺すかだと思う。総合的な窓口にすることで、いろいろなところにたらい回しにされないとか、専門家やNPOとつながり、地域ごとにある施設との情報共有といった連携のあり方について、具体的な検討がなされている。

不登校について、アウトリーチで学習する場ができたらいいのではないかということも、複合化施設の話と関連するが、複合化施設にも面積的に限りがある。子どもたちの居場所、学習する場の拡充について、どう支援ができるかは、検討したい。

子ども食堂のフードロスの解決については、SDGs が 2030 年までなので、子ども・教育分野だけでなく、ほかの分野もあわせてどう入れられるか、委員会で考えたい。

家庭から障害課に行かなくてはいけないというのは、複合化施設について検討する場でもいろいろな方から話が出た。複合化施設の最初の入り口の部分で受けとめ、どこにつながりたいかということが、よりスムーズになるように、私も、その検討の場でお伝えしたところだ。

幼稚園と保育園の処遇待遇の差は、保育の質の向上や幼児教育の質の向上とも関連する。趣旨は討議要綱に含めたつもりではあるが、書き方で工夫したい。

義務教育の小中学校無償化については、不登校のお子さんに合った学校に通うことはとても重要だと思う一方で、不登校ではないが公立ではなくて私立に行かせたいというところのバランスをどう考えたらいいのか。また、不登校児が問題児として捉えられてしまうというところも問題である。全ての子どもに学ぶ権利や遊ぶ権利があるという意識を大人の側でどう変えていくかというアプローチがまずあったうえで、学校としてどのようなあり方があるのかを考える必要がある。

性教育の充実も大事である。今回、討議要綱の中でも、子どもたちが将来、子どもを持

ち、子育てをする、もしくは子育てしないが子どもたちに関わるというイメージが持てるようにという趣旨の一文を入れた。これは、子どもの権利、パートナーシップについて学ぶということとも関連して、子どもが、まず自分のことが大切であるということ、それと同様に周りの人たちも大事なんだというところから始まって、家族について、地域について、市民として社会にどう参画するかという、自分の将来を考えることにもなるという部分が読み取れるように書いていきたい。

一時預かり保育の拡充については、「様々な関連機関」として、幼稚園も含め書き込んだつもりではあるが、読み取りづらいということであれば、もう少し表現を考える。

桜堤児童館しかないこと、小中高生が関われる施設がほとんどないことについては、様々なところでご意見をいただく。乳幼児、小学生だけでなく、中高生も地域の居場所の中で育つ。それが将来市民になるということをもう少し書き込んでいきたい。児童館を増やすというのは行財政分野とも関連すると思うが、予算と場所に限りがある中で子どもたちの居場所をどうつくるのかについては検討する。

将来的な変化に対応した学校改築には、ハード面とソフト面、それぞれ別々に考える必要がある。他区では、廃校になった小学校を複合化施設として使っている。60年先の変化については予測できない部分もある。まず今の子どもたちの学びとか居場所の充実を考えながら、60年先のことも考えていくことが大事である。

**【委員長】** 産後うつに関しては、前回の第六期長期計画の中で、産後うつ対策の充実を図るという部分があった。ただし、コロナ禍で、かなり深刻化している。我々に何ができるかということ、ご提案等を含めて考えたい。

一時預かりの充実・拡充に関しても、確実にニーズがあることはわかっているので、どのような方々に、どのようなニーズがあるか、様々な方法等を考えられればと思う。

STに関しては、幼児教育における発達特性や、家庭環境が多様化する中、様々な専門家とどのようにコラボレーションするかという議論が今まさに始まっている。我々策定委員会でも勉強させていただきながら、検討する。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、子ども・教育分野の意見交換会を閉じた。

以 上